
影武者

ラフティー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

影武者

【著者名】

ラフティー

【あらすじ】

時代は戦国時代。表では沢山の武将が名をあげ勝利をしていったが、その裏には沢山の犠牲があつたそんな者たちに立ち向かつた侍の話

第一章～白い牙と不死鳥～

鉄のにおい

身体中が痛いな

やつすぎた・・か

俺の周囲には数十人の侍の死体が転がっている
どいつもこいつも悪そうな顔をしている

こいつらは俺の主の宿敵のしたつぱ

弱かつたがここ一週間闘いだらけで身体が悲鳴をあげている

ドサッ

しばらく横になつて回復を待つことにした

第一章

「白い牙と不死鳥」

ああ俺の目が地面に染み込んでやく・・・細々と俺は向かって立った

うつ

ひな元へひまじてゐる

ザッ

誰かの足音

そして聞こえた声

「誰だ・・・村潰しの役人か・・」

女の声だった、かなり怒っているのか俺をつかみあげた、目があった
すると、

「！？お前は西の国の・・・白い牙か！？」

かなり動搖している　当たり前だろう、俺は全国に名の知れた白
い牙だからだ名前だけで逃げるやつだつている

「別に村潰しの役人ではない・・・ただの侍だ」
女は少し安心したのか、そうかといい去つて行こうとした

が

「見付けたぞ！不死鳥だ！」草むらから数人の男たちがでてきた

「覚悟しろ」

一人の男が刀を振りかざした・・・

「不死鳥？」

聞いたことがあるな・・たしか不死鳥の血をすすると不死の体になるとか。

女は大きな扇子を両手に

「屍の舞」といふ扇子を勢いよくふる、すると男たちは傷だらけになり倒れた

何が起きたのだろう？俺はわけが分からなくなり女に話しかけた

「お前は一体何者だ？」

女は静かに答えた

「お前と同じ者だ」

第二章) 人とは・・・

「お前と同じ者だ」

第二章) 人とは・・・

俺と同じ? どうということだ

突然のことでの頭が混乱している・・・

俺が考えていると女が歩き出した、一応後をついて行く・・・すると小さな村をたどり着いた

そして

目にした光景はあまりにも残酷であった

地面には無数の屍、作物は枯れており人々が少ない食べ物を取り合っている

家のなかを覗いてみると小さな子供たちが横たわっている、頭がには風が沢山いるし体は餓死寸前で骨がみえかけている

女は村人一人一人に何かを渡している

米であった

村人「いつも・・すま・・ねえ」

村人たちがこうして生きているらしい、米を食べ泣き崩れる者もいた

俺も配るのは手伝った

女「すまなかつたな・・」

「別に気にするな・・しかしこの村は・・」

女「ああ・・・戦で若者を無くし、戦場にもされた村だ・・・」

「・・・・・。そりや、お前さつき俺と同じものだとかいったよ
な?」

女「言つた・・・お前のことは知つていい、白い牙と恐れているのは
武士や大名だけだ・・・・。」

「・・・・・といひ言つと・・・・・お前も」

すると、女は改まって俺に言った

女「頼みがある。一緒にこの馬鹿げた戦いを終わらせてほしい…！」
！・・・・民のためこ・・・・・。

今にも消えてしまいそうな声で苦しそうに話した

「覚悟はあるのか。」

女「…………ある」

「…………そうか…………いか俺たち以外はみな敵だとと思え
…………だから、俺は信じる！――！」

女「…………お前…………」

「さつと決まつたら…………お前名前は？俺は壱我だ（リュウガ）」

女「…………琉南（ルナ）」

こうして二人の戦いが始まる

第三章～裏桶狭間の戦い（前編）～

「それじゃ行くか」

琉南「・・・・ああ」

第三章～裏桶狭間の戦い（前編）～

織田信長は今川義元を討ち取るべく、軍を駿河（静岡県）へとむかわせた

それを知った今川は沢山の民を犠牲に戦の準備を始めた
そんな今川と話をするべく壘私たちも駿河へ足を運んだ

今川「みんなのものたかが尾張の小さな大名だ！！負けるでないぞ！」

「「「才才！-！-！」」

「琉南、俺は今川と話をつけてくる。お前は近くの民を」

琉南「分かつた。」

まずは今川を会わなければしかしどう出るか
少し考えていると

兵「…………白い牙だあ…………」

「ゲツ・信長の偵察部隊・」

ブウーブウー

織田「……なに？白い牙が・・そつか・・・。」

濃姫「どうするのかしら？」

織田「すべての兵につぐ。白い牙を討ち取つたものには・・・。
分かつているな。」

「「「ワアー」」

「嘘だろ？・・・」

兵「白い牙！――覚悟！――！」

琉南「早く！――」しつち――そつちは駄目！――！」

将軍「民だらうが、われわれの目的は信長だ――！」

琉南「！？お前たちは信長を打つ」としか口に止まらないのか！！！
！！沢山の民が苦しんでいるのに……」

將軍「だまれ女！！！そこをど……！？お前は不死鳥…………」

琉南「…………だつたらなんだ！！！お前らはここで死ぬだけだ
！！！」

大きな扇子を広げ殺氣をこめて睨み付ける

琉南の背後からは赤紫の何かが見える

「どうするか……んつあれば……今川！？」

いつの間にか今川の所へ着ていた

「今川！……！」

第4章～裏桶狭間の戦い（中編）～

「今川！……！話を聞け」

今川「！？おぬしは白い牙、なぜ！」

「戦いをとめにきた」

今川「止めるだと！？何を言つか、我が夢は全国統一！！！」
負けるわけには・・・」

「たくさんの民が苦しんでいる、だから「民など関係ないわ、奴ら
は救いよつもない連中さ」！？ふざけるな！！！」

今川「白い牙なぜお前のような悪人が民のかたをもつ？そんな暇が

あるなら我が軍につけ、勿体ないぞよそなたの刀使い
今川は笑いながら話した龜我は怒りを押さえた
にぎりしめている拳からは血が垂れている

ザツ

琉南「はあはあ・・・」琉南の周りには沢山の死骸と血

織田「随分と派手にやつたな、不死鳥よ」

織田は琉南に近づき襟足を掴み揚げた

琉南「くつ殺したきや 殺せ」

織田「噂は本当のようだな、その左腕は」

琉南「！？」

左腕には無数の深い傷と不気味な紋章が刻まれていた

琉南は織田の手を振り払い叫んだ

琉南「テメエには関係ない！！！今すぐ戦を中止しろ」

織田は笑い出した

織田「中止しろだ？愚か者め、お前はただ民が死ぬのが怖いだけで
あらう？人はいずれ死ぬそれが早いか遅いかだけだ。例え我らが止
めようと他の連中は止めるとはないだらう、それは不死鳥・・・
お前が一番よくしっているのでは？」

返すことが出来なかつたそう戦は終わらないだらう でも

琉南「私のような思いをみなにさせたくないだけだ」

琉南さん、私のこと忘れないで下れ。

琉南

君は生きる

俺はいつもお前のそばにいるから

琉南は涙を流しながら織田に武器を構える

織田「愚かな」
織田も刀を構えた。

が、

「琉南！――！」

後ろから壇我が走ってきた

琉南「壇我！？今川は？」

「信長、今川は戦を放棄したぞ」

織田「なに？」

「だから戦はもつもわっ――？？
グサツ

なんと信長は壇我を刺し馬に乗つて走り去つた

琉南「壇我！――！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1864d/>

影武者

2010年10月9日18時09分発行